（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス デイジー			
○保護者評価実施期間	令和8年2月25日	～	令和8年3月10日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	１３名	（回答者数）	１３名
○従業者評価実施期間	令和8年2月25日	～	令和8年3月10日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	７名	（回答者数）	７名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月9日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもへの個別支援の充実と保護者との信頼関係構築	支援開始前後の職員ミーティングにより、その日の支援内容・役割分担を確認し、チームで情報を共有しています。連絡帳や面談を通じて保護者との日常的なコミュニケーションを大切にし、こどもの状況を丁寧にお伝えしています。	保護者向けの相談・面談の定期化を図るとともに、個別支援計画の見直しサイクルをさらに充実させ、より細やかなニーズへの対応を進めます。
2	経験豊富な職員配置による専門的支援体制の整備	保育士資格を持つ5年以上の経験者を配置することで専門的支援加算を算定し、質の高い支援体制を整えています。あわせて福岡県発達障がい者（児）支援センター（LIFEセンター）の心理士を定期的に招聘し、個別ケースへの助言と職員へのスーパービジョンを実施しています。	経験豊富な職員が持つ知識・技術を組織全体で共有する仕組みを整え、職員全体の専門性向上につなげます。外部研修への参加機会も継続的に確保し、支援の質をさらに高めてまいります。
3	支援プログラムの充実と多様な活動プログラムの展開	事業所の支援プログラムをホームページで公表し、実際の支援内容との一致を意識した運営を行っています。活動プログラムは固定化しないよう職員チームで立案・見直しを行い、こどもの状況や季節・テーマに応じて柔軟に組み合わせています。屋外活動や地域の公民館の活用など、日常に変化と豊かさをもたらす工夫を積み重ねています。	こどもの「からだ・こころ・ちえ」の育ちをより意識したプログラムの体系化を進めます。個々のこどものニーズや発達段階に応じた活動の選択肢を広げるとともに、活動の振り返りをプログラム改善に活かすサイクルを丁寧に積み上げてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士・きょうだいの交流機会が設けられていない	開所から1年8か月ほどであり、日常的な支援体制の構築・安定化を優先する中で、保護者同士が交流できる機会を設けるまでに至っていませんでした。	保護者の皆様の負担にならない形を大切にしながら、まずはご意向やニーズを面談等を通じて丁寧に把握した上で、交流の機会のあり方を検討してまいります。きょうだい向けの取組についても同様に、保護者のご意見を踏まえながら検討します。
2	第三者外部評価の未実施と地域に開かれた事業運営の不足	外部評価については受審先の情報収集や手続きの把握が十分でなく、具体的な準備に至っていませんでした。地域に開かれた事業運営については、まず地域との接点をつくる段階にあり、住民を招いた行事の実施には至っていませんでした。	外部評価機関への相談・情報収集を進め、受審に向けた準備を開始します。地域住民を対象とした行事の開催や、地域の公民館・団体との協働活動を通じて、事業所の地域への開放を段階的に進めてまいります。
3	家族支援プログラム・ペアレントトレーニングの提供と地域交流機会の不足	ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムについては、実施できる体制や機会が十分に整っておらず、外部機関の情報も保護者へ十分にお伝えできていませんでした。地域交流については、環境の変化や初めての人との関わりに不安を感じやすいこどもが多く、一人ひとりの特性や状況を十分に考慮する必要があることから、具体的な連携の形をどのように進めるべきか慎重に検討を重ねている状況です。	ペアレント・トレーニング等については、外部機関が実施する研修の情報を収集・案内するとともに、事業所内での情報共有の場を設けることを検討します。地域連携については、こどもの特性や準備状況に応じた段階的な関わり方を模索しながら、無理のない形でのあり方を引き続き検討してまいります。まずは公民館の定期利用など、こどもが慣れ親しんだ環境での活動を丁寧に積み重ねることを大切にします。